

## [平成 28 年度在京飯田高校同窓会総会 報告記]

11月12日(土)にアルカディア市ヶ谷において在京飯田高校同窓会総会が177名の参加のもとに開催されました。今回は在京同窓会が設立されて63周年にあたり、学年幹事の高31回生(渡部清司幹事長)および高41回生により企画・運営されました。総会を成功させようと、幹事会が今年1月に発足され、精力的に企画・準備に取り組みました。その結果、当日は高31回生と高41回生の見事な連携と協力により、総会・懇親会が大盛況のうちに終了しました。

**第一部の総会**では、冒頭に故西村清一前会長ほかに対する黙祷の後、総会が開始され、まず佐々木康夫会長(高15回)が挨拶され、同窓会に参加することの意義等について述べられました。次に本部同窓会副会長の矢澤昭彦さん(高12回)の来賓ご挨拶があり、飯伊地域の人口減少に伴う高校入学定員の減少傾向について述べられました。続いて第1号議案では大原事務局長が平成27年度事業報告と平成28年度事業計画を発表し、総会参加者の増加策等について述べました。ひき続いて第2議案では、榊原会計担当幹事から平成27年度会計報告と平成28年度予算案が発表され、第1議案、第2議案とも満場一致で採択されました。

**第二部講演会**では、DVD「飯田高校生と目線の110年史」の放映の後、熊谷晃さん(前銀座NAGANO所長、現長野県東京事務所長、高31回)が以下のテーマで講演されました。

講演テーマ:「銀座NAGANOから見えてきた地域活性化のヒント」

～アンテナショップからブランド創造拠点へ～

嘗て誇った「観光王国」としての地方ブランド力が凋落する中で、長野県は信州ブランドの再構築に着手し、2014年10月に「銀座NAGANO」を開設しました。その銀座NAGANOの開設準備から2年を経過して、見えてきた現代人の価値観の変化と、今地方が伝えるべきこと、ブランド発信の重要性を報告するとともに、リニア新時代を迎える南信州の活性化の方向性について講演されました。「落研」出身かと思紛う巧みな話術を駆使しての講演は大変楽しく、多くの同窓生から大好評を博しました。

**第三部懇親会**では、まず喜寿祝の記念品贈呈の後、参加者最年長の平田達さん(特別顧問、中47回)のご発声により全員で乾杯しました。引き続いて牧島晃飯田高校校長(高28回)から来賓ご挨拶を戴き、ラグビー班が長野県大会決勝で惜敗したこと、進学状況等が披露されました。次に、今年行われた「お練り祭」とBS日本の「空から日本を見てみよう」のDVD映像が放映されました。会場が旧交を温めあう和気藹々とした雰囲気の中、喜久水の「利き酒コーナー」が設置され、勿論、人気の五平餅も出されました。また、地元飯田からは、“見晴”の五平餅の販売のほか、“恵泉”の「市田柿ムース」や“肉のスズキヤ”の「鹿肉カレー」の販売がなされました。なお、各期の記念撮影が行われました。

宴たけなわの頃、元応援団の中島光夫さん(高21回)、峯垣明さん(高29回)、大久保武彦さん(高37回)の指揮により、参加者全員で応援歌、校歌を合唱し最高潮に達しました。校歌の合唱では、校歌の前口上として、牧内雪彦さん(中47回)が作詞した序詞が述べられました。「みすずかる信濃は飯田高松の……いざや歌わん我が母校飯田高等学校校歌!! アイン・ツバイ・ドライ」を中島応援団長が吟じ、校歌に入りました。そして、来年度幹事(高32回、高42回)への引継ぎの後、本島信副会長(高11回)が中締めを行い、3時間半に及ぶ在京飯田高校同窓会総会は歓声の中で終了しました。

(文責 大原直 事務局長、高21回)